

旅のあと

津軽のつと 寛政10年1月1日～1月20日
外浜奇勝(3) 寛政10年3月中旬～7月9日

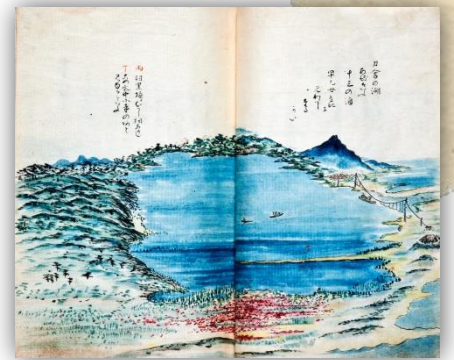


菅江真澄の津軽路を語る

フォーラム

参加無料

平成26年 **11**月**23**日(日) 午前10時～12時頃まで
五所川原市中央公民館 二階第1会議室



「菅江真澄、旅日記の読み方 ～津軽での記録～」 秋田県立博物館学芸主事 松山 修 氏

パネルディスカッション テーマ「菅江真澄の津軽の旅を探る」

主催 特定非営利活動法人 白神自然学校一ツ森校
後援 青森県 五所川原市 津軽半島環境研究センター

【申し込み/問い合わせ】白神自然学校一ツ森校 事務局
tel:0173-82-7057 fax:0173-82-0015 mail:school@shirakami.gr.jp





講師：松山 修（まつやま おさむ）氏について

新潟大学教育学部を卒業後、秋田県内の小学校に11年間勤務。平成9年4月、秋田県立博物館に赴任。開設されて2年目の菅江真澄資料センターを担当し、今年で17年目となる。博物館では、菅江真澄資料センター運営の全般に携わり、資料センター関係の展示活動のほか、博物館教室の開催などの教育普及活動、研究誌「真澄研究」の編集や執筆などの広報出版活動、資料の保存活動を行っている。また、博物館の分掌として、教育普及班に所属している。

すがえ ますみ

菅江 真澄 とは

1754 生-1829 年没 本名：白井英二

三河・尾張天明3年(1783年)故郷を離れ、信濃・出羽・陸奥・蝦夷地・下北・津軽と旅をし、享和元年(1801年)再び秋田を訪れ、1829年秋田県仙北市で亡くなっている。真澄は若い頃、名古屋の香積院の僧侶の丹羽嘉言と共に伊吹山で薬草を採取している。この地は織田信長が薬草園を開いたところでもあり、本草学をはじめとする知識を存分に吸収した旅は、図絵千七百図(随筆を除く)に及び、真澄の旅の見聞の集大成となっている。



真澄が弘前藩領(津軽藩)に入る頃、弘前藩では、必要以上の金銭が領外に流出しないための政策として、薬の自給自足を図っていた。本草の知識と技能に優れていた真澄は、寛政9年(1797年)から11年(1799年)の間に、2回にわたって採薬御用手伝いとして雇われていた。

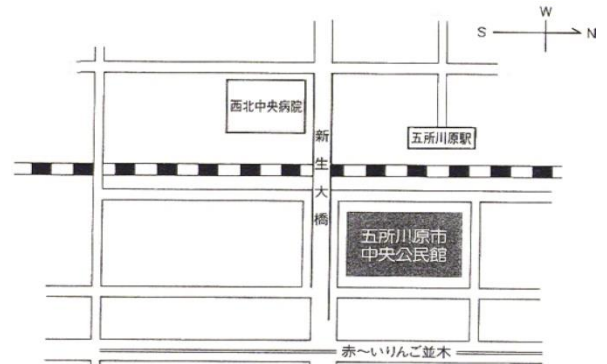
フォーラム参加のお申し込みについて

・特定非営利活動法人白神自然学校一ツ森校 へお申込み下さい。

- 1) 電話：0173-82-7057
- 2) FAX：0173-82-0015
- 3) メール：school@shirakami.gr.jp
- 4) 郵送：〒038-2723 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字一ツ森町字上禰 88-2 特定非営利活動法人白神自然学校一ツ森校 事務局

・参加申込者が予定人数を超えてご参加いただけない場合のみ、ご連絡を差し上げます。

・下記申込内容の記入があれば、申込様式は問いません。(申込書式は任意です)



【会場】五所川原市中央公民館

青森県五所川原市字一ツ谷 504 番地 1
TEL：0173-35-6056

「菅江真澄の津軽路を語るフォーラム」 参加申込用紙

名前 (代表者名)			
住所 (代表者住所)			
電話番号 (代表者電話番号)		申込人数	人
その他 (連絡事項)	※団体申込の場合は、団体名をご記入下さい。		